

## 「宇宙飛行士・若田 光一さん」に学ぶ

校長 大谷 慎也

立秋が過ぎても記録的な猛暑や豪雨のニュースに心穏やかではない日々が続いておりますが、本日2学期の始業式を生徒も職員も元気に笑顔で迎えられたことをとてもうれしく思います。この夏の暑さの中、県学校総合体育大会や夏季体育大会、各コンクールや発表会等で、木崎中生が自分自身や部員全員で決めた一つの目標に向かって全力を尽くし、栄光の軌跡を残しました。たとえ、思うような結果が得られなかったとしても、その努力は、新たな目標への礎となり、やがて将来の自分の誇りとなることでしょう。生徒を陰ながら支えてくださった保護者・地域の皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、2学期は、日々の生活を充実させ、一人ひとりが自分自身を向上させる時期です。「体育祭や合唱コンクールにおいて集団のために協力し、自分の役割を果たす。」、また、「学力を高め、自らの進路について熟慮する。」ときです。そのためには、目の前にある小さな目標に全力で取り組み、そして、一日を振り返り、「明日はこうしよう。」と考えながら生活することが重要となります。その積み重ねが、日々の生活の充実や自身の向上につながります。

5年前の2013年11月から翌年の5月までの188日間、国際宇宙ステーション(ISS)第38次・第39次長期滞在において大役を果たした宇宙飛行士の若田光一さんが、帰還会見においてさいたま市や日本の子どもたちに次のようなメッセージを送っています。

さいたま市で生まれ育ち、学校の先生をはじめお世話になりましたが、宇宙に憧れ、飛行機の技術者、宇宙飛行士と自分の目標をかなえることができました。多くの方々に励ましていただいたことが、こういった道に進めた大きな理由だと思います。さいたまの方や子供たちに伝えたいのは、一人一人、誰にも負けない素晴らしい力を持っているということです。この分野ならどんなにつらくとも頑張れる、そういった分野を見つけ、明確な目標を定め、努力する。失敗しても決してあきらめずに努力すれば、その過程で得たものは将来の糧になって目標の実現につながると思います。

それまでのミッションを含めた若田光一さんの宇宙滞在期間は、合計347日8時間33分に達します。また、第39次長期滞在ミッションでは、世界の絶大なる信頼を寄せられ、日本人初となるコマンダー(船長)を務めました。コマンダーは、危機的な状況の下でクルーメンバーの命を預かる立場です。2003年2月1日、スペースシャトル・コロンビア号事故以来、コマンダーはそれまで以上に複雑で高度な役目を求められるようになりました。ISSで火災や空気漏れ事故が発生した場合の対応や地球への緊急帰還等、最終的な判断を下します。もちろんクルーメンバーは、コマンダーの指示・命令には従うことになります。若田さんに、コマンダーとしての適性や技量、そして、何よりも人間力が備わっているからこそ、任命され、見事にその責務を全うできたのだと思います。御縁があつて御本人と直接お会いしてお話をしたり、NASAでお仕事にメール交換したりした若田さんは、たいへん謙虚な方でした。また、笑顔の素敵な方でした。若田さんのお母様をはじめ御家族もすばらしい方々でした。偉業を成し遂げた若田さんの控えめな言動には、苦しさや辛さよりも、人々への感謝の心や夢に向かって努力する向上心が強く感じられます。

2学期は、1年間の中で最も授業日数の多い学期です。学校教育目標は勿論のこと、4月当初設定した個々の目標や学年・学級の目標達成への成果をしっかりと見直し、新たに日々の小さな目標を設定しながら、向上心を持ち、努力を重ねれば、さらに、学期末には大きな成果が得られるはずですよ。

保護者、地域の皆様、皆様の一声が生徒の心を耕し、潤しています。学校でも、教職員一同、一人ひとりの生徒に手をかけ、目をかけ、時間をかけて、豊かな心をはぐくんでまいります。ぜひ、2学期も御支援と御協力をお願い申し上げます。